

平成30年度第4回障害者雇用促進プロジェクトチーム (発言要旨)

日 時：平成31年2月6日（水）午前10時10分～11時45分
会 場：群馬県庁295会議室

1 開会

2 あいさつ

(1) 労働政策課長 坂庭 秀

今年度のプロジェクトチームも本日が最終回となる。今年度は、ぐんまグッジョブフェアの名称や実施内容、医療機関と就業支援機関等の連携促進などについて御検討いただき、実施することができた。改めて御礼申し上げる。

さて、本日のプロジェクトチームでは、31年度県障害者雇用関連予算案・事業の検討、農福連携の取組状況の報告、2月15日に開催を予定している「働く精神障害者支援連携会議」の概要説明などを予定している。

委員の皆様からは忌憚のない御意見をいただき、実効性のある施策の推進を図ってまいりたい。

3 議事

(1) 31年度予算案・事業について ※前回PTの説明内容からの変更点を中心に記載 ア 労働政策課

- ・障害者就労サポートセンター運営では、拡充部分として労働政策課の職員2名が厚生労働省の「ジョブコーチ養成研修」を受講するための経費を計上。研修で学んだ内容を企業支援等に活かす。
- ・ぐんまグッジョブフェアは、より多くの県民にPRするため、新たに商業施設で開催予定。

イ 障害政策課

- ・特別支援学校を活用した週末活動支援では、前回のPTで障害者サークルへの支援について拡充したい旨説明したが、結果的には従来の内容を継続することになった。
- ・新規事業の障害者就労連携プロジェクトでは、①企業、支援機関、障害者を対象とした交流会や②就労移行支援事業所向けの研修を行う。①では、意見交換、シンポジウムにより関係機関の生を声を聞く機会を提供し、相互理解を促進することを目指している。

ウ 農業構造政策課

- ・特別支援学校生徒の農業分野での活躍支援では、農業分野での就職に関心のある特別支援学校高等部2～3年生と、障害者雇用に前向きな農家等をマッチングし、雇用に繋げることを目指す「トライアル支援」を新たに実施。
- ・農福連携普及啓発事業では、農福連携についての研修会の開催地域を今年度の1カ所から、2カ所へ拡充。
- ・JAによる農福マッチング事業では、JAに設置する相談窓口の数を現在の1カ所から、2カ所へ拡充予定。

エ 産業人材育成課

- ・障害者委託訓練では、新たに「介護サポート習得コース」を設け、ベッドメイクや清

掃、洗濯等を習得してもらい、雇用に繋げることを目指す。

オ 特別支援教育課

- ・特別支援学校作業学習充実では新たに、農業を作業学習に取り入れている8校の高等部の作業環境整備を行う。

【質疑】

(山後委員)

- ・障害政策課の「障害者就労連携プロジェクト」は、以前やっていたものをリニューアルするということか。就労移行支援事業所向け研修は新たに実施するものか。

(都丸委員)

- ・リニューアルである。就労移行支援事業所向け研修もこれまで実施していたが、テーマの見直しを図るものである。

(五十嵐委員)

- ・採用と定着の好事例を、企業に対してたくさん出していただきたい。

(高橋委員)

- ・卒業後3年間の定着率でみると、特別支援学校高等部卒業生は約85%で、高校卒業者を上回っている。その要因は、企業の協力を得て職場実習させてもらうことにより、仕事の向き不向きがはっきりした状態で就職できるから。採用段階でのマッチングが卒業後の定着に繋がるので、採用と定着を一体的に考えていきたい。

(五十嵐委員)

- ・職場実習の受入れが採用後の定着に繋がるということを、企業へPRしてほしい。企業はそういうことが分からない。

(中野委員)

- ・ぐんまグッジョブフェアは商業施設で開催予定とのことだが、具体的な会場は決まっているか。労働局と県が共催している障害者雇用促進トップセミナーとは、別のイベントとするのか、今年度同様一体的に行うのか。

(事務局)

- ・来年度、トップセミナーとぐんまグッジョブフェアは別日での開催を予定。グッジョブフェアの会場は決まっていないが、例えばスマーク伊勢崎やけやきウオークなど大きなイベントスペースを有する商業施設を想定している。

(2) 農福連携の取り組み状況について

(石井委員から説明)

ア 特別支援学校生の現場実習支援事業

- ・特別支援学校生徒7名が農家での現場実習を行った。5カ所の農家が受入れに協力。
- ・実習の結果、特別支援学校生徒に対する農家の評価は概ね高かった。また、農業分野での就職を考えたいという生徒もいた。
- ・2月27日に受入れ農家や関係者による意見交換会を開催予定。
- ・来年度は、可能なら畜産農家での実施も検討していきたい。

イ 地域における農業者と障害者の作業受託マッチングモデル事業

- ・農家と障害者の相互理解醸成のためのDVD、パンフレットは3月上旬完成予定。
- ・障害者雇用への環境整備支援では、農作業現場での簡易トイレのリースやコンニャクの掘取り作業で使用するコンテナの導入支援を行った。
- ・マッチング事業では、富岡及び渋川市内のコンニャク農家と特例子会社及び障害福祉サービス事業所とのマッチングを行い、障害者がコンニャクの掘取り作業を行った。

【質疑等】

(山後委員)

- ・利用者の工賃アップにも繋がるので、障害福祉サービス事業所を積極的に活用していただきたい。

(都丸委員)

- ・特例子会社や障害福祉サービス事業所とは、どのように繋がったのか。

(石井委員)

- ・西部農業事務所や県障害者施設等共同受注窓口に紹介してもらった。

(竹内座長)

- ・特別支援学校生の現場実習支援事業について、生徒を雇用に繋げていくための今後のプロセスは。

(石井委員)

- ・受入れ先は小規模農家も多く、実習は受け入れるが雇用は難しいという所もある。今後、雇用に繋がりそうな大規模農業者での実習を検討したい。

(竹内座長)

- ・実習した生徒が農家で働きたいと思っても、雇用の可能性がなければ意気を挫かれてしまう。

(萬谷委員)

- ・個人農家での障害者雇用は難しいのでは。障害福祉サービス事業所の施設外就労を活用するのが現実的。利用者の工賃向上にも繋がっている。

(西方委員)

- ・昨年3月にミツバグループ内にミツバハーベストを設立。現在、ミニトマト栽培を行っているが通年での作業はないので、まだ障害者雇用はできていない。現在露地栽培を研究しており、通年で一定の作業量を生み出せるようにしたい。今年8月頃には特別支援学校生徒の実習を受け入れ、来年4月には雇用を開始したい。

(竹内座長)

- ・農業には季節により作業量の変動するという問題があるので、農業構造政策課が中心となって各課と情報交換しながら農福連携を進めてもらいたい。

(3) 働く精神障害者支援連携会議 in 太田・館林について

(事務局)

- ・本会議では、第1部で精神障害者の雇用事例発表、第2部で参加者同士の情報交換を行い、互いの顔の見える関係づくり、企業の抱える課題の共有を図る。

- ・今後、年1回程度定期的な開催を予定。

【質疑等】

(真坂委員)

- ・医療機関だからこそ分かることもあるので、企業は遠慮せずに聞いてほしい。それにより、企業の不安は解消されると思う。
- ・精神障害者は調子がいい時ばかりではないが、悪い時は悪いなりに頑張っていて出勤する努力をしている。企業には、そうした努力を認めてほしい。

(4) 第16回群馬県雇用戦略本部への報告について

(事務局)

- ・第16回群馬県雇用戦略本部への報告資料について説明

(5) その他

ア ぐんまグッジョブフェアプロモーション動画視聴

- ・ぐんまグッジョブフェア当日の様子を撮影・編集した2分程度の動画を放映

(竹内座長)

- ・見ている人が何の場面か分かるように、テロップ等入れてはどうか。

(女屋委員)

- ・動画を一般の方に見てもらえるような工夫をした方がよい。

(事務局)

- ・動画については、県ホームページの他、県の障害者雇用フェイスブックページに掲載予定。

(萬谷委員)

- ・今年度、県庁でグッジョブフェアを開催したが、ほとんど関係者しか来なかったのではという印象。一般の県民にアピールしないと障害者の雇用に繋がらないのでは。

(高橋委員)

- ・生徒の教育という観点からは、グッジョブフェアの会場を県庁にしたことはよかったと感じている。日頃の学習成果を、障害者雇用促進トップセミナーに参加した会社の社長に見てもらい、県庁というシンボルで学習成果を披露するというモチベーションや目的があった。
- ・会場が商業施設になり、障害者雇用促進トップセミナーと別日開催となると、グッジョブフェアの開催目的が若干変わってくるのでは。

(竹内座長)

- ・グッジョブフェアの会場については、事務局でよく検討してほしい。

【総括】

(竹内座長)

- ・障害者雇用をはじめ、発達障害や農業の人手不足についても現在、社会的関心が高まっている。そうした関心をバネに、官民で障害者雇用を上手く進めていければと考えている。

以上